



## Medi-Way 医療通訳者紹介 Vol.29 中国語担当 Iさん



### ◆なぜ医療通訳者になった？

私は中国の大学で看護学を専攻していました。日本で働くために大学時代から日本語と医療知識を勉強してきました。来日後、着物レンタル店でアルバイトをしながら、通訳を始めました。その経験から通訳の達成感を十分味わって、通訳は有意義な仕事であることを認識しました。その後、医療知識を活用して通訳できる仕事があればな、と考えていた時に大阪大学の医療通訳養成コースのことを知りました。系統的に医療通訳の知識を勉強して、医療通訳者になろうと思いコースに参加しました。卒業後は正式に医療通訳者として働き始めました。

### ◆今まで医療通訳に携わってきて一番嬉しかったことは？

患者さんが言葉がわからなくて困っている場面で自分が医療通訳者として登場すると、ご本人も、ご家族も、医療スタッフの方々も皆さんほっとした顔をされます。医療通訳者がいることで皆さんが安心される様子を見ると、この仕事をやっていて一番嬉しく、幸せだなと感じます。

### ◆より良い通訳をするために心掛けていることは？

正確に素早く通訳できるように、いろいろな知識や技術を身につけることを心がけています。医療知識は、もちろん日々勉強し更新していかなければなりません。方言に対する対応や、素早くメモを取ることなどもレベルアップするよう意識が必要です。医療通訳者としての経験がまだ浅いので、いろいろな面を注意しながら勉強する必要があるということ、いつも心がけて成長していきたいと思っています。

## ある通訳者のつづやき



私たちは普段オンライン通訳で、映像や音声を通して、医療者の方と患者さんのコミュニケーションの手助けをしています。通訳者がその場にいないでも、映像や音声で表情や声、動きを確認できることで、より多くの情報が伝わることを日々実感しています。

両親の年齢が高くなり、元気なうちにみんなで集まろう、と最近我が家で何かにつけ食事会を開くことが多くなりました。そんな時、遠方に住む子どももオンラインで参加でき、祖父母は大喜び！離れていても画面を通して元気かどうか、声や表情、時には映り込む家の中の様子で、生活の状態まで知ることができます。本当に便利な時代になったものだ、便利が安心を運んでくれるんだなとしみじみ思います。

来年は関西万博が開催されます。1970年大阪万博ではテレビ電話が未来の夢の道具として話題に上ったと言います。今度はどんな「夢の道具」が見られるのでしょうか、楽しみです。



## 今月のトピックス



### 「国際臨床医学会学術集会」



11月23日、新しく建て替えられた大阪大学中之島センターで、第9回国際臨床医学会(略称ICM)の学術集会が開催されました。ICMは、国際診療・国際臨床医学の連携推進を図ることを目的に発足し、医療通訳士や国際看護師の認定を行っている団体です。2016年から年1回、東京大・北海道大・九州大など各地持ち回りで学術集会が開催されており、今年は、大阪大学医学部附属病院国際医療センターとの共催で、大阪開催となりました。medi-wayの顧問である連医師のシンポジウムや、中牟田センター長の参加する「医療通訳・言語」に関する口演もありました。「学会」というとお堅い感じですが、発表を聞くだけでなく、さまざまなテーマのワークショップに参加することもできます。外国人患者さんの受け入れを行っている医療現場の方々から、現場で実際に起こった事例をうかがったり、普段交流の機会の少ない医療通訳者の皆さんと、悩みや仕事のやりがいについての考えを共有したりして、とても勉強になりました。こうした学術集会を通じて、医療通訳士という仕事をもっと広く認知してもらいたい、という皆さんの熱い思いを再認識できたように思いました。

